

山口県立山口図書館開設 120 周年・建築 50 周年記念

「見る・聴く・考える 山口県の図書館建築」の講演概要

第 1 部 写真で一気に振り返る！山口図書館の 120 年 13:35~13:45

第 2 部 講演 二代目山口図書館と春日山周辺の近代建築群 13:45~14:30

昭和3(1928)年に建設された二代目山口図書館は、今年で築95年。一の坂川そばに建っていた初代図書館は、なぜ春日山山麓へ移されたのか。設計者・木下潔とはどんな人物なのか。外壁の意匠は何を意味するのか。図書館としての先進性は何だったのか。それらの謎を建築士の視点から考察すると共に、現存する旧図書館ほか春日山周辺の近代建築群の活用の可能性を探る。



講師:原田正彦 氏

1954年吉敷郡小郡町生まれ。1978年京都大学大学院工学修士建築学専攻卒業後、山口県庁建築技術職員として36年間奉職。現在(一財)山口県建築住宅センター勤務。一級建築士、山口県ヘリテージマネージャー、(一社)山口県建築士会副会長、NPO まちのよそおいネットワーク理事長、山口近代建築研究会代表。現在、山口新聞に「やまぐち近代建築ノート」連載中。KRY 山口放送局「さわやかモーニング~山口近代建築探訪」に建築ガイド役として出演中。

第 3 部 記念講演 山口県立山口図書館と建築家・鬼頭梓 14:45~16:00

鬼頭梓(1926~2008年)は東京生まれ。1950年東京帝国大学建築学科卒業後、前川國男建築設計事務所に入所。1964年独立後、東京経済大学図書館(1968年)、日野市立中央図書館(1973年)、山口県立山口図書館(1973年)、洲本市立洲本図書館(1998年)など、全国各地に30を超える図書館を手掛けた。民主主義時代に相応しい開架式の閲覧式を持つ戦後型図書館建築のパイオニアとして大きな足跡を残した。



本講演では鬼頭の図書館建築作品を振り返りながらこれからの公共図書館の在り方について考える。

講師:松隈 洋 氏

神奈川大学教授、京都工芸繊維大学名誉教授。

1957年兵庫県生まれ。1980年京都大学工学部建築学科卒業、前川國男建築設計事務所入所。2000年4月京都工芸繊維大学助教授。2008年10月同教授、2023年4月から現職。

工学博士(東京大学)。専門は近代建築史、建築設計論。主な著書に、『建築の前夜 前川國男論』、『ル・コルビュジエから遠く離れて』、『モダニズム建築紀行』、『ルイス・カーン』、『近代建築を記憶する』、『坂倉準三とはだれか』、『建築家・坂倉準三「輝く都市」をめざして』、『残すべき建築』、『前川國男 現代との対話』(編著)、『建築家・前川國男の仕事』(共編著)、『建築家大高正人の仕事』(共著)、『日本建築様式史』(共著)など。



「生誕100年・前川國男建築展」(2005年)事務局局長、「文化遺産としてのモダニズム建築—DOCOMOMO20選」展(2000年)と「同100選」展(2005年)のキュレーションの他に、A・レーモンド、坂倉準三、C・ペリアン、白井晟一、丹下健三、村野藤吾、谷口吉郎・谷口吉生、吉村順三、大高正人、増田友也、山本忠司、浦辺鎮太郎、瀧光夫、鬼頭梓など、多くの建築展の企画に携わる。DOCOMOMO Japan代表(2013年5月~2018年9月)。文化庁国立近現代建築資料館運営委員(2013年4月~2020年3月)。同志社大学兼任講師(2009年4月~2012年3月、2018年4月~2021年3月)、京都芸術大学非常勤講師(2011年~)。2019年に著書の『建築の前夜 前川國男論』により日本建築学会賞(論文)受賞。